

世田谷区史 編さんだより

創刊号 平成30年(2018)9月

世田谷区では、昨年から世田谷の歴史と発展の経緯を記録して後世に伝えていくために3度目の区史編さん事業を開始しました。

新たな区史は2022年(区制90周年)から順次刊行の予定です。

今回の区史編さんにあたり、皆様からの資料・情報のご提供をお願いしております。



①家庭用品購入通帳 ②衣料切符 ③家庭用米穀通帳 ④家庭用燃料通帳 ⑤主要食糧選択購入切符 ⑥家計簿

区史に関する資料・情報をお寄せください

上の写真は、昨年12月、梅丘の清家様からご寄贈いただいた資料の一部で、戦中から戦後にかけての通帳類・衣料切符・家計簿などです。

歴史に関する資料というと、墨で書かれた古文書を考えがちですが、日記や家計簿、会社や商店でお持ちのチラシなども貴重な歴史資料です。

また、家の押入れや戸棚、物置などに眠っている古い写真や、すでに使われなくなった道具類などからも昔の暮らしの様子がわかります。

まずはご連絡を

普段、ガラクタとして邪魔にしていた物が、実は貴重な歴史資料だったといったことも決して少なくありません。

皆様がお持ちの古い資料・写真・道具類などがございましたら、どのような物でもかまいませんので、区史編さん担当(上記編さんだよりの連絡先・電話 03(6432)6144)までご一報ください。

後日、担当からご連絡し、詳細を伺わせていただきます。

軍都世田谷を歩く

明治中頃からは、丸ノ内のオフィス街化に伴い、大山街道（現・国道246号）に沿った青山・渋谷・目黒方面に軍事施設が移され、駒場野も兵營の移転先となりました。

これにより、世田谷の東部地域（現在の代沢・池尻・三宿・太子堂・下馬等）には、明治24年の騎兵第1大隊を手始めにさまざまな軍事施設が設置され、さながら軍隊の町とでもいべき景観を呈するようになりました。今年の6月、近現代専門部会（P4参照）では残されている軍事施設などの跡を視察しました。その一部をご紹介します。

①天覧台

（国道246号線の「大橋病院入口」の信号で左折し、坂を上り、目黒区立宮下児童遊園の左側の道を登って、都立駒場高校のグラウンドを見下ろす場所。）

明治・大正天皇が合わせて15回にわたり陸軍乗馬学校（陸軍騎兵学校）卒業馬術展覧のために行幸された場所です。碑の裏面に、輜重兵第1連隊、輜重兵学校がこの地にあったことを示す図があります。



④糧秣廠馬糧倉庫

（池尻2-23-4生協・運送会社の倉庫）

周辺の駐屯地の軍馬に与える「まぐさ」を保管する倉庫です。鉄骨組みの倉庫で今も現役で使われています。このあたりは世田谷区から目黒区にかけて広大な駒沢練兵場でした。

⑤医学情報史料室（彰古館）

（自衛隊三宿駐屯地、陸上自衛隊衛生学校内。見学には2週間前までに所定の手続きが必要。）

幕末から太平洋戦争までの軍事医療の史料を収集・展示している全国でも珍しい医学情報史料施設です。

⑥平和資料館（世田谷公園内）

太平洋戦争の空襲や学童疎開、戦時下の生活などを展示しています。展示物は、主に区民の皆様から寄贈されたものです。

世田谷公園内には、戦争のない平和な社会を実現していくことを願って、被爆2世のアオギリと柿の木、「平和の灯」など平和のモニュメントが設置されています。



⑦馬魂碑

（下馬図書館の向かい。都宮下馬アパートの小公園内。）

このあたりは野砲兵第1連隊のあったところです。軍馬は戦友であるという愛護精神の溢れた碑です。近くに馬頭観音や軍馬の碑もあります。



明治の初めから駒場野は軍隊の野外演習の場所としてしばしば使用されていました。



②「馬神」碑

（道路沿いのマンションの敷地。目黒川緑道に下りる階段の手前。）

馬の蹄鉄が碑の下に多数並べられています。戦没、病没軍馬を慰霊する碑です。このあたりは騎兵第1連隊跡で、③ともあわせ「騎兵山」と呼ばれた見晴らしの良い場所です。



③騎兵第1連隊址

（②のマンションの下の道路の崖沿いに町会の防災倉庫がある。その横に扉付の階段があり、そこを上ったところ。扉は必ず閉めること。）

このあたりも「騎兵山」と呼ばれています。司馬遼太郎の「坂の上の雲」に登場する「日本騎兵の父」といわれる秋山好古が大隊長となった騎兵第1連隊がありました。

日清・日露戦争の戦没者の慰霊碑や日清戦争時の戦死者名を刻んだ碑があります。碑の裏面には、建立者として秋山好古の名前を見ることができます。



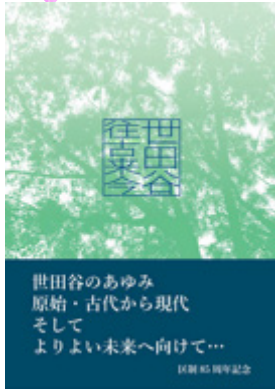
■池尻周辺の軍事施設（大正末期）



その他

現在は駒場学園高校（代沢1-23）、富士中学となっているところに陸軍獣医学校が、また現在はマンション（太子堂3-36・37・38）となっているところに陸軍第2衛戍病院がありました。

世田谷の歴史をたどる冊子を発売中

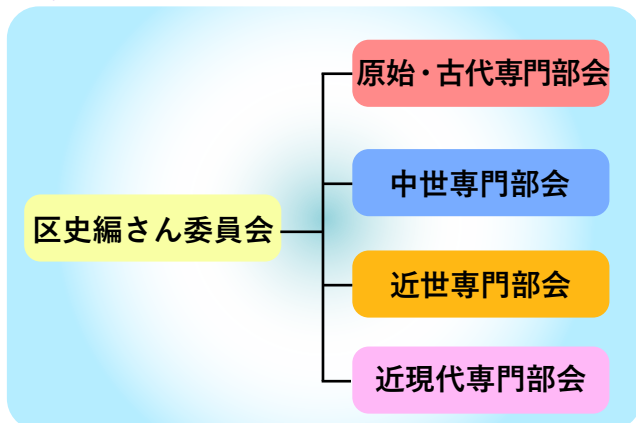


- 価格 / 1080 円
- 販売場所 / 区政情報センター（世田谷区民会館内）、総合支所区政情報コーナー、郷土資料館、世田谷文学館、世田谷美術館

昨年の区制 85 周年を記念して、原始・古代から現代までを記述した「世田谷^{おうこらいこん}往古来今」を発行しました。

世田谷の歴史や文化、お住まいの地域に対する興味・感心を深めていただけるように、これまでの遺跡発掘や古文書の調査なども踏まえ、現時点における最新の成果をまとめています。

区史編さんの体制



昨年の 6 月、学識経験者等で構成される「世田谷区史編さん委員会」が発足しました。委員会の下に「原始・古代」、「中世」、「近世」、「近現代」の 4 つの専門部会を置き、部会ごとに資料収集、調査を行います。そして、その成果に基づき原稿の執筆を行うこととなります。



「区史編さんの基本的な考え方」が決まりました

区史編さん委員会では、委員会発足直後から新たな区史編さんに向けて、その基本的な考え方などを議論してきました。

昨年 10 月、「区史編さんの基本的な考え方」がまとまり、同年 11 月、区議会に報告しました。

基本方針は

- 最新の成果を盛り込んで編さんする
 - 区民にわかりやすく、読みやすい区史とする
 - 地域に生きた人々の視点、暮らしてきた様子が伝わる区史とする
- などです。

詳しくは、区のホームページをご覧ください。

区のホームページ

トップページ > 暮らしのガイド > 区政情報 > 世田谷区について > 区の紹介・統計 > 区史編さん

編集後記

「世田谷区史編さんだより」創刊号を発行しました。区史編さん事業を進めるにあたり、区民の皆様には区史編さんに対するご理解を深めていただくとともに、編さん事業の進捗状況をお知らせしてまいります。

編さんだよりは年 2 回の発行予定です。この編さんだよりを皆様との情報や意見交換の場としても活用したいと考えております。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

◆ 2・3 ページの参考資料

- ・黒田涼『大軍都・東京を歩く』（朝日新聞出版 平成 26 年）
- ・吉田律人「渋谷周辺の軍事的空間の形成」（上山和雄編著『歴史のなかの渋谷—渋谷から江戸・東京へ』渋谷学叢書 2 國學院大學渋谷研究会 所収 雄山閣 平成 23 年）
- ・『世田谷近・現代史』（世田谷区 昭和 51 年） など